事故を起こした大人は、子どもに伝える義務と責任がある

東電福島原発事故の深刻な現状を伝えない「放射線副読本」

●崎山比早子

福島第一原発事故後、全国の小学生から高校生に「放射線副読本」が文科省から配布されるようになり、現在まで2回の改訂がされている。２０２１年４月に多くの反対があるにも関わらず政府と東電が「ＡＬＰＳ処理汚染水」の海洋放出を決めたことから、この汚染水についても加筆もされた。この副読本について、「原子力教育を考える会」の崎山比早子さんの寄稿。

東電福島第一原発事故後11年以上になる今日、緊急事態宣言はいまだに解除されていません。事故現場はいつ何が起きてもおかしくない程危険なため解除できないのです。事故を起こした大人には、せめて子どもたちにその現状を包み隠さず伝える義務と責任があります。それは彼らがこれから自分の身を守り生きてゆくために必要だからです。

文部科学省が小学生から高校生に配布している「放射線副読本」（副読本）には事故の現状と放射線の影響などが正確に記載されているでしょうか？　事故の起きた２０１１年に配布された副読本には、「はじめに」に福島原発で事故があったと記載したのみで、本文では事故についていっさい触れていませんでした。

これには強い批判が出され13年に改訂されました。改訂版には水素爆発で破壊された原子炉建屋の写真や広域な汚染地図などが掲載され、幾分改善されました。しかし18年に再度改訂された副読本からは、壊れた建屋の写真が削除され、汚染地図は80㌔圏内のみに限られました。

３版にわたる各副読本の問題点は「原子力教育を考える会」のウェブサイト「よくわかる原子力」に指摘してありますので参考にしてください。

2021 年版の「放射線副読本」
「中学生・高校生のための」（左）、「小学生のための」（右）

汚染から注意逸らす

副読本は2章から成っています。それぞれについて主な問題点を挙げます。

「放射線、放射性物質、放射能とは」は、前版と章立てが入れ替わって第1章に、事故についての章が第２章になりました。放射線については自然放射線と人工放射線を区別せず「放射線はどこにでもありゼロにすることができない」を何回も繰り返すことで、事故による汚染から注意を逸らそうとし、放射線に対する警戒心を起こさせないように腐心しています。

放射線の危険性とは、放射線のエネルギーが桁違いに大きく体を透過することができ、たとえ1本通っても体の中の分子、特に体の設計図であるＤＮＡを傷つけ得ることです。従って、ある線量以下ならリスクはないという境界の線量（閾値）はなく、損傷は線量に比例して増加し（閾値なし直線〝ＬＮＴ〟モデル）、リスクは蓄積するという基本を全く教えていません。

そして健康影響については、あたかも１００〝Sv以上のみに発がんリスクがあるように書き、１００～２００〝Svの発がんのリスクは野菜不足、塩分の取りすぎと同程度とし安全性を印象付けています。

しかしこのような比較は文科省自身ですら「通常許容できない比較」（文科省のウェブサイト「リスクコミュニケーション案内」参照）としています。その上この比較の基のデータは国立がん研究センターがん対策研究所の津金昌一郎氏らによるものですが、同氏らは15年に野菜不足と発がんの関係を否定する調査結果を報告しているのです（国立がん研究センター「がん対策研究所予防関連プロジェクト」参照）。

甲状腺がん言及せず

「第２章　原子力発電所の事故と復興のあゆみ」では、原発事故での冷却機能の喪失・燃料棒の溶融・放射性物質の放出が説明され、事故原因は想定外の大津波であり「安全対策が不十分だった」と説明しています。放出された放射性物質による汚染は起きたけれど、素早い国の対応により、内部被ばく線量の検査では「全員が健康に影響が及ぶ数値ではなかった」と繰り返し、現にある甲状腺がんの多発については甲状腺の名称すら出てきません。

また「原子炉は現在注水により安定しており廃炉作業が多くの作業員の手で進められている」「放射線の影響で人が近づけない場所でも作業ができるようロボットを開発中である」と、廃炉作業の困難さが伝わらない記述です。現実は1号から3号機の、溶け落ちた所在も定かではない８００㌧もの超高線量燃料デブリを取り出せるロボットを作れるのかわかりませんし、取り出しても保管場所がありません。デブリは今ある場所で外部に漏れないよう厳重に管理するのが最も現実的で安全なのです。

廃炉作業の中で急を要するのは、建屋４階にある冷却プールから使用済み核燃料を地上のプールに移す作業です。地震、経年劣化などにより冷却プールから水が抜けてしまうと高い放射線のために人が近づけなくなり作業不能になるからです。これはデブリ取り出しなどに比べ容易な作業と思われますが、11年経ってまだ3分の1しか終わっていない事実については全く言及していません。

究極のいじめ

21年度版では「廃炉に向けた課題」として汚染水の記述が加えられ、ＡＬＰＳ処理水が安全であるとするチラシと共に学校に配布されました。海洋放出については「風評」のみが問題であり、心配するのは非科学的で「放射線について理解し、科学的根拠や事実に基づいて行動する必要」があるそうです。

さらに「地域の復興・再生のため」事故現場近くに東日本大震災・原子力災害伝承館やコミュタン福島が建設され、福島イノベーション・コーストなど大規模開発事業が進行中としています。事故現場で再び重大事故が起きる可能性が十分あることは想定外のようです。

「差別・いじめが起きないようにするには震災にあった友達や避難生活をしている友達の気持ちになって考えてみよう」とも書いています。しかし政府は避難した住民を帰還させるために公衆の年間被ばく線量限度の１〝Svを20〝Svに引き上げ、安全だとして住宅支援を打ち切り、立退かない住民に対しては家賃を倍増し、裁判にかけて追い出しを図っています。これは究極のいじめではありませんか。

教育の要にある文科省が明らかな間違いを教え、事実の隠蔽を率先して行っているこの国の先に、希望をつなげますか？

＊5月11日に原子力資料情報室などが政府交渉を行い、要望書を提出（ふぇみんも賛同団体として参加）。内容は「ヒバク反対キャンペーン」ウェブサイト。

「廃炉に向けた課題」から汚染水の海洋放出について説明した記述

廃炉作業の過程では、原子炉を冷やす際などに放射性物質を含んだ水が発生しています。これを処理した水が海に放出されることを受けて、「環境や生物が汚染されることで、私たちの健康に影響が及ぶのではないか」という不安から生じる風評を心配する声もあります。この水は、特別な設備（＊）などを用いてほとんどの放射性物質を浄化し、大幅に希釈することにより、健康や環境への安全を確保するための基準を十分に満たした上で、海に放出される方針です。放射線について一人一人が理解し、このような科学的根拠や事実に基づいて行動していくことが必要です。

＊多核種除去設備（ALPS：アルプス）

（文科省の「放射線副読本」小学生用・中高校生用から。編集部で、注部分のみ一部省略）

0123456789...theNumber

68%

5月発表の朝日新聞世論調査で、「政治に最も優先的に取り組んでほしい課題」のうち、景気・雇用、年金・医療・介護、教育・子育てを選択した人の割合。ちなみに「憲法」は２%。

吉野王隠堂農園の青梅

農園の青梅は、農薬を減らし有機質肥料を使用。木で完熟させてから収穫するのが特色です。用途に応じてご注文ください。

① 梅酒・梅ジュース用
② 梅干用　＊①、②とも価格は共通です
- 5kg ---------- 5,400 円
- 10kg ---------- 9,600 円

③ もみじそ
- 500 g---------- 700 円

表示価格は消費税込み

送料別：クール宅急便です。
料金は一律 1,300 円。
注文しめきり：①は6月13日、②は6月22日、③は7月23日
出荷予定：①は６月５～７日～順次、②は６月15～17日～順次、③は６月１日～順次

お申し込み・お問い合わせは
ふぇみんのお店
TEL 03−3402−3244
FAX 03−3401−3453
info@femima.com

We
2022 6・7 238号
「We」隔月刊　A5判・80頁・1冊 913円（税込）
年間購読 5,700円（6冊/税・送料込み）

特集・ケアを地域にひらく

【お　話】鈴木 妙佳子さん・中畝 治子さん
こどもハッシン! 呼吸器生活向上Project
―医療と共に暮らすこどもたちを知ってほしい

【お　話】石井 麗子さん・佐藤 智子さん
「暮らしの保健室」がコミュニティで果たす役割

【連　載】「水俣病患者相談窓口の日々」永野 三智
「女がマスメディアで生きるということ」竹信 三恵子 他

フェミックス　tel:045-482-6711　http://femix.co.jp/
fax:045-482-6712　E-mail:jimu@femix.co.jp　通販:https://femixwe.cart.fc2.com/